日本赤十字社医療センター 情報誌
Japanese Red Cross Medical Center

# TeaTime

vol. 97
2026
無料配布

特集 ▸P.2

## 胃・食道外科でロボット手術を開始
## クオリティ高い緻密な手術を行うために

新任のご挨拶 ▸P.2

連続テレビ小説『風、薫る』に
当センターが看護指導しています！ ▸P.2

連携医のご紹介 ▸P.6
育良クリニック／MYメディカルクリニック 渋谷

2025年度 医療安全週間イベント
表彰式を開催しました ▸P.7

あなたの治療を支える
プロフェッショナル集団 ▸P.8

HAPPY BIRTH ROOM ▸P.10
マタニティークラスでパパクラスはじまりました！
5B周産母子ユニット　狩野 瑶生

スマイルレシピ ▸P.11
新じゃがいもとアスパラガスのバター醤油炒め
栄養課　内田 奈那

◆ 新任のご挨拶 ◆

## 安心して医療を受けられるように

副院長 出雲 雄大
Takehiro Izumo

このたび副院長を拝命いたしました出雲雄大です。呼吸器内科医としての経験を生かし、地域の医療機関の皆さまとより一層連携しながら、質の高い医療の提供に努めてまいります。また、デジタル技術も活用し、患者さんにとって安心で利便性の高い病院であり続けられるよう尽力してまいります。

## 24時間365日、命と尊厳を守ります

救命救急センター長・救急科部長 山下 智幸
Tomoyuki Yamashita

このたび救命救急センター長・救急科部長を拝命いたしました。救急医療は、当センターの重点領域の一つであるとともに、社会のセーフティーネットとして重要な機能を担っています。多職種・他診療科との連携を基盤に、病院前救急、救急初期診療、集中治療の充実を図り、平時・有事を問わず24時間365日、病院と社会をつなぐ部門としての責務を果たしてまいります。近隣医療機関とも緊密に連携し、地域全体で命と尊厳を守る救急医療のさらなる充実に努めてまいります。

## 連続テレビ小説『風、薫る』に当センターが看護指導しています！

NHKで放送中の連続テレビ小説『風、薫る』は、明治という激動の社会を舞台に、生きづらさを抱えた二人の女性が、当時まだ知られていなかった看護の世界に飛び込む物語です。傷ついた人々を守るために奔走し、時に強き者と戦う、ちょっと型破りな2人のナースの冒険が描かれています。

本作には、当センターの看護師が看護指導として関わっており、専門的な視点から内容の正確性と実在感の向上に貢献しています。また、現場で培った知見をもとに、よりリアリティある描写を支えています。ぜひご覧いただき、作品を通じて看護の奥深さを感じていただければ幸いです。

連続テレビ小説
『風、薫る』

【NHK総合】
毎週月曜～土曜
午前8時～8時15分
＊土曜は1週間を振り返ります

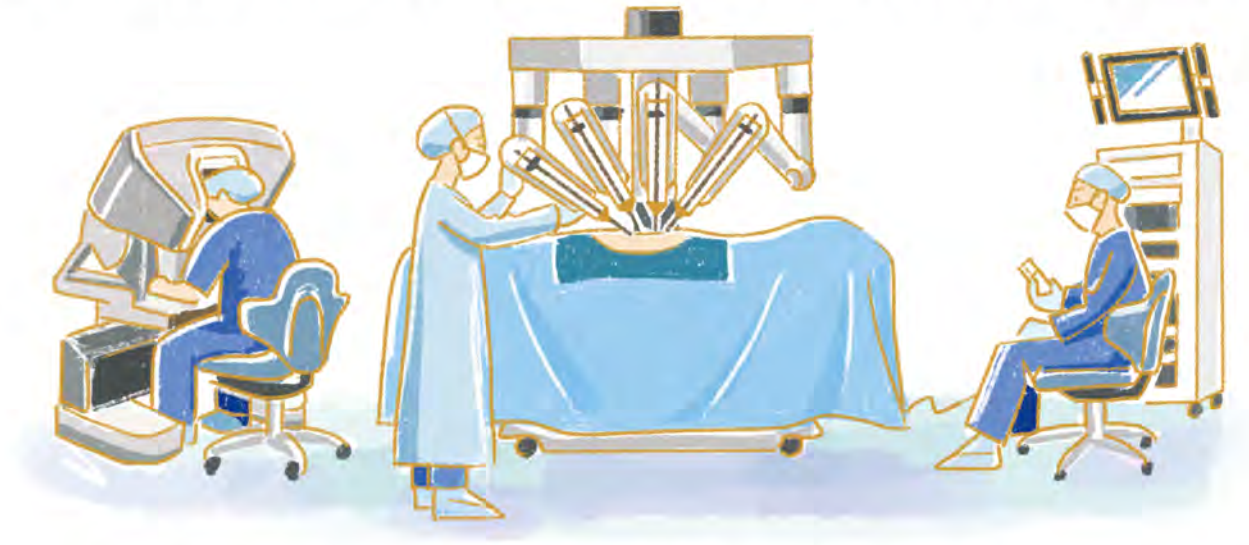
【NHK BS、プレミアム4K】
毎週月曜～金曜
午前7時30分～7時45分

特集

## 胃・食道外科でロボット手術を開始

# クオリティ高い緻密な手術を行うために

当センターでは泌尿器科や婦人科などでロボット支援下手術（ロボット手術）を導入してきましたが、
この度、胃・食道外科においてもロボット手術を始めました。ロボット手術にはどのような特徴があり、
実際にロボットを操作する感覚はどのようなものなのでしょうか。胃･食道外科部長の永岡栄医師に話を聞きました。



### 胃がん切除でロボット手術がスタート

**――ロボット支援下手術（以下、ロボット手術）とはどのような手術なのか、教えてください。**

**永岡：**ロボット手術とは、４本のアームがついたロボットを外科医が操作をして手術を行う方法です。がんを切除する外科手術の方法として、今まではお腹を開く開腹手術と、お腹に小さな穴を開けてカメラや器具を入れる腹腔鏡手術がありましたが、これに加わるのがロボット手術です。ロボット手術の特徴としては、人間の手首よりも柔軟なロボット関節が使え、手ブレもせずに正確な操作ができる点が挙げられます。

**――ロボット手術の実績について教えてください。**

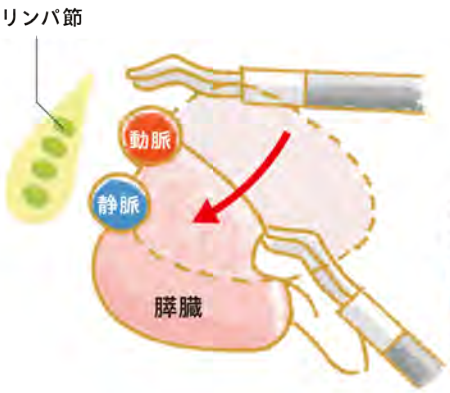
当センターでは以前から泌尿器科や婦人科、呼吸器外科、大腸肛門外科でロボット手術を行ってきました。胃がんと食道がんについては、２０１８年からロボット手術が保険適用となっています。当センターは地域がん診療連携拠点病院、高度急性期病院であり、患者さんに負担の少ない医療を追求してきました。胃・食道外科においても準備を進め、２０２５年12月から胃がんに対するロボット手術を始めました。今後、食道がんに対してもロボット手術を行いたいと考えています。

**――開腹手術、腹腔鏡手術、ロボット支援手術と、どのような基準で手術法を決めているのですか。**

**永岡：**過去の手術による癒着が予想される場合や、直接手で触れて確認しながら安全に切除する必要がある場合を除き、腹腔鏡手術またはロボッ

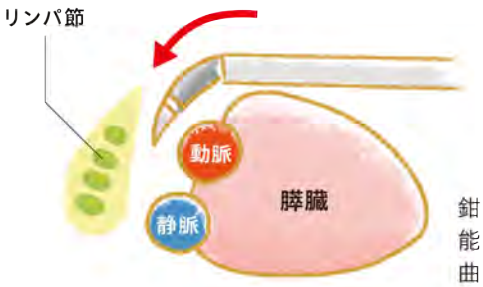
アーム先端のカメラが捉えた術野をチームで共有

## 腹腔鏡手術




鉗子は真っすぐにしか進めないため膵臓を押し付けないとリンパ節に届きにくい。

## ロボット手術




鉗子が多関節機能のため自由に曲がり、膵臓の上にあるリンパ節に届きやすい。

ト手術を優先します。ただ、当センターに現在あるロボットは1台のため、他の診療科や患者さんとスケジュールを調整しながら手術法を決めていきます。基本的には、腹腔鏡手術が可能ながんに対しては今後ロボット手術に移行する方針を立てています。

## 腹腔鏡手術との違いや合併症リスク

**――腹腔鏡手術とロボット手術とでは、お腹に開ける穴の数や大きさに違いはありますか。**

**永岡：**開ける穴の数や大きさはほとんど同じです。胃がんにおいては、腹腔鏡手術よりもロボット手術のほうが、下腹部寄りの場所に穴を開けます。下腹部のほうが痛みを感じにくいとされていますが、痛みの程度は腹腔鏡手術とロボット手術とでほとんど変わらないと思います。

また、手術中の出血量や、退院までの日数も、腹腔鏡手術とロボット手術とで大きく変わりません。費用についても、ロボット手術は保険が適用されて高額療養費制度も利用できるため、経済的な負担は腹腔鏡手術とほとんど変わりません。

**――手術時間に違いはありますか。**

**永岡：**ロボットアームを装着・脱着する時間が余分にかかります。例えば、胃がんの標準的な手術である幽門側胃切除術の場合、腹腔鏡手術なら3～4時間ですが、ロボット手術は始めたばかりで慎重に行っているため現時点では5～6時間かかっています。ただ、慣れれば腹腔鏡手術と同じくらいの時間になると思います。

**――手術の合併症という点においてはいかがでしょうか。**

**永岡：**胃がんの手術で特に懸念されるのが「膵液ろう」です。胃がんの手術では、膵臓の上にあるリンパ節を切除する際、膵臓を手や器具で押さえる必要があります。このとき、膵臓に力がかかりすぎると膵臓にダメージを与えてしまい、膵液が漏れ出すことがあります。これが膵液ろうです。膵液には消化酵素が含まれており、周囲の臓器や血管を溶かしてしまいます。術後の退院を長引かせる、厄介な合併症です。ロボット手術の場合、関節機能を使うことで膵臓を押さえることなく、膵臓を乗り越えるようにしてリンパ節に到達できます。そのため、ロボット手術なら膵液ろうのリスクを減少できると考えています。

当センターでは食道がんに対するロボット手術の実績はまだありませんが、食道がんの合併症で最も避けたいのは「反回神経麻痺」です。食道がんは、声帯の動きを調節する反回神経の周囲のリンパ節に転移しやすいため、そこを切除します。反回神経は、少し触るだけでも麻痺が起きてしまいます。ロボット手術であれば、手ぶれがなくなるため、反回神経を刺激することなく、周囲のリンパ節を安全に切除しやすくなります。反回神経麻痺の発生率が下がったという論文があります。

## 患者さんのお腹の中に手が入っていく没入感

**――医師から見た、ロボット手術の特徴を教えてください。**

**永岡：**腹腔鏡手術では特に助手との協力が欠かせません。一方、ロボット手術はサージカルコンソールという操縦席に座り、双眼鏡を覗き込むようなかたちで3D映像に集中するため、手術を一人で行っているかのような感覚があります。カメラを自分の意思

で自由に動かせ、臓器を安定して固定できます。

もう一つ、画面の見え方がまったく違います。腹腔鏡手術は、通常2Dの平面的な映像をモニターで見るのですが、ロボット手術では完全に3Dの立体的な映像で、見えている世界が腹腔鏡手術とはまったく違います。3D映像をのぞきながら手術を行っていると、まるでお腹の中に自分の手が入っているような感覚になります。ロボット手術は触覚がないのですが、不思議と自分の手が患者さんのお腹の中で動いているような没入感があります。

これは、逆に注意しなければいけないとも思いました。ロボットアームが臓器などを引っ張る力は意外と強く、触覚がないため、力加減を慎重に調整する必要があります。そういう点においても、今までとはまったく違う種類の手術だと感じました。その特徴を理解して操作に慣れてくると、クオリティの高い緻密な手術が可能になると確信しています。

ちなみに、医師が口ボット手術中に顔を上げるとすべてのロボットアームが自動停止するしくみになっており、安全対策もしっかりしています。

## 何よりも優先すべきは患者さんの安全

**――先生が部長を務めている胃・食道外科の強みを教えてください**

**永岡：**強みはチーム医療です。ロボット手術は医師だけで完結するものではありません。手術室の看護師、麻酔科医、臨床工学技士などの皆さんの協力が不可欠です。患者さんごとに丁寧なシミュレーションを行い、妥協のない手術に臨んでいます。私自身も、手術の数日前にはロボットメーカーが提供しているトレーニングセンターにスタッフと共に赴き、シミュレーターや実機に触れてウォーミングアップを行うなど、入念な準備をしてきました。将来的には、当センターでもシミュレーターを導入し、日常的にトレーニングできる環境を作りたいと考えています。

3Dカメラで術野を立体的に観察しながらアームを操作

**――先生は外科系副院長と患者支援室長も務めていると聞きました。患者さんの安全を守るための体制づくりについても教えてください。**

**永岡：**何よりも「患者さんの安全」を第一としております。2026年4月から口ボット支援下手術推進委員会を立ち上げましたが、新しい技術をただ急いで導入するのではなく、病院全体で職種や診療科の垣根を越え、慎重かつ万全の体制で患者さんを守ることを心がけています。

ロボットアームを動かすコントローラー

副院長/胃・食道外科部長/内視鏡診断治療科部長
**永岡　栄** Sakae Nagaoka

### 患者さんや家族へのメッセージ

がん治療において最も重要なのは「早期発見」です。少しでも気になる症状があれば放置せず、検査を受けていただきたいと思います。定期的な検診もぜひ受けてください。早期に発見できれば、外科手術だけでなく、より負担の少ない内視鏡治療も可能です。当科では口ボット手術を含め、地域基幹病院として質の高い治療を当たり前に受けられる体制を整えています。何でもお気軽にご相談ください。

地域とつながる

# 連携医のご紹介 vol.3

普段の診療は身近な地域の医療機関（かかりつけ医）が行い、入院や特別な検査は専門病院が行うという役割分担のことを「地域医療連携」といいます。当センターでは地域医療連携を推進するため、地域の医療機関と多く連携しており、連携医の先生方は患者さんの日常診療を担う大切なパートナーです。今回は、多くの連携機関のうち、育良クリニック、MYメディカルクリニック 渋谷をご紹介します。

## 育良クリニック

院長　浦野 晃義 先生

| | |
|---|---|
| 住　所 | 〒153-0051　東京都目黒区上目黒 1-26-1<br>中目黒アトラスタワー 4F 外来/ 5F 入院 |
| 電話番号 | 産科/婦人科 03-3792-4103<br>生殖医療科 03-3713-4173 |
| 診療科目 | 産科・婦人科・生殖医療科 |
| 休診日 | 産科・(女性医師、お子様連れの) 婦人科・生殖医療科：第 4 木曜午後・日曜午後・祝日<br>婦人科・生殖医療科：木曜午後・日曜午後・祝日 |

### 日本赤十字社医療センターとの連携について

当院は中目黒アトラスタワーにあり、日赤医療センター産婦人科出身の医師が創設しました。無痛分娩やフリースタイル分娩などローリスク分娩を行っていますが、緊急時には24 時間受け入れてくださる日赤医療センターの存在に深く感謝しています。

### 得意分野・クリニックの強みなど

不妊症、無痛分娩、フリースタイル分娩、産後ケア、婦人科一般

### 読者へのメッセージ

私たちのようなクリニックは、相談の入口の役割を担っています。日赤医療センターのような高度医療施設での診察が必要と判断した場合は速やかに連携し、バトンをお渡ししています。どうぞ安心してお気軽にご相談ください。

## MYメディカルクリニック 渋谷

院長　大原 慎 先生

| | |
|---|---|
| 住　所 | 〒150-0042　東京都渋谷区宇田川町 20-17<br>NMF 渋谷公園通りビル 3F・4F・5F |
| 電話番号 | 03-4213-7219 |
| 診療科目 | 内科・糖尿病内科・血液内科・婦人科外来・禁煙外来・トラベラーズ外来・睡眠時無呼吸症候群外来など |
| 休診日 | 土曜夜間・日曜夜間・祝日 |

### 日本赤十字社医療センターとの連携について

日赤医療センターには、夜間や休日も含め日々数多くの救急患者さんや、専門外来受診が必要な患者さんの紹介を受けていただいております。クリニック一同、大変感謝しております。逆に、日赤医療センターに通院中の患者さんで病状が安定した方は、当クリニックで診療することも可能です。

### 得意分野・クリニックの強みなど

高血圧・脂質異常症・糖尿病などの生活習慣病、貧血などの血液検査異常、海外渡航前のワクチン接種

### 読者へのメッセージ

当クリニックは、平日は 8 時45 分から20 時 15 分まで、土日は16 時30 分まで診療を行っています。毎日ではないものの、循環器内科・呼吸器内科・消化器内科・血液内科・糖尿病内科の専門医が外来に出ております。また、健康診断で再検査が必要になった方、精密検査が必要になった方のご相談もお受けしております。

★ 2025年度 ★

# 医療安全週間イベント表彰式を開催しました

2025年度医療安全週間イベントとして、職員の医療安全推進活動の推進を図る目的で、
「医療安全標語コンテスト」および「医療安全に貢献したこと（Safety Activities）」を開催いたしました。
「医療安全標語コンテスト」の応募総数は66件（一般：36件、職員：30件）、「医療安全に貢献したこと（Safety Activities）」は10プロジェクトがエントリーし、院内審査を経て2026年3月4日に表彰式を行いました。たくさんのご応募ありがとうございました。

## 《医療安全標語コンテスト》

### ▸院長賞◂

違和感を　感じた時が
気づき時
ペンネーム　ぷむ

### ▸金　賞◂

おかしいな その違和感を 大切に
ペンネーム　春夏秋冬

急ぐほど ミスの神様 寄ってくる
ペンネーム 再確認の鬼

### ▸銀　賞◂

見たつもり、知ったつもりが事故を呼ぶ
見直す勇気で 確かな医療
ペンネーム おくすり二郎

「もう一度」確認作業に損はなし
ペンネーム ままかり

### ▸銅　賞◂

あたまの中の その「？（ハテナ）」
声に出したら すくわれる
ペンネーム おーい

安全は　ロうるさいのが
ちょうどいい
ペンネーム 再確認の鬼

こまやかな　心と笑顔で
寄り添って
みんなで作る　安全の輪
ペンネーム りょうこ

**2作品入選した「再確認の鬼さん」よりコメント**

このような評価をいただきありがとうございます。ミスは能力だけでなく焦りから生まれてくると感じています。「ミスの神様は急いでいる人によってくる」という前提で、一呼吸置くことを徹底しています。その数秒が事故を防ぐと考えています。

## 《医療安全に貢献したこと》

### ▸院長賞◂

ラピッドレスポンスシステムで急変を未然に防ぐ
ラピッドレスポンスチーム

### ▸医療安全推進室室長賞◂

患者誤認に対する面会者カードの導入
NICU

スタッフを支え、医療を守る
～サポートチームが築く 明日の医療安全～
医療事故当事者サポートチーム

アザシチジンの期限切れ撲滅大作戦!!
11A病棟

### ▸優秀賞◂

転倒転落防止ポスターによる医療安全の啓発
放射線課

安全な移動を目指して
～ Move Safely プロジェクトチーム～
Move Safely プロジェクトチーム

肝炎医療コーディネーターによる
肝炎患者拾い上げ
肝炎医療コーディネーターチーム

患者さんの転倒・ふらつき防止ポスター
検査部

患者の移乗時の
CV抜去アクシデントからの学びの共有
9B病棟

インスリンアクシデントを減らすために
糖尿病ケアチーム



※2026年度の医療安全標語コンテストはお休みいたします。

# ナル集団 vol.2

るかもしれません。
意識を持ち、力を合わせて働いています。
ます。

## より安心して受けられるCT・MRI検査へ

放射線課 緒方達哉
海保友里

当センターでは、CTやMRIの造影検査をより安心して受けていただけるよう、検査の流れを見直しました。

これまでは検査室内で点滴の準備を行っていましたが、現在は事前に処置室で準備を行ってから検査室へご案内しています。これにより、検査室で過ごす時間が短くなり、患者さんの負担軽減や待ち時間の短縮につながっています。

また、診療放射線技師と看護師が検査前の情報をしっかり共有し、安全確認を行うことで、安全に検査を受けていただける体制を整えています。

検査中に不安なことや気になる症状がありましたら、遠慮なくスタッフへお声がけください。今後も患者さんに安心して検査を受けていただけるよう、より良い検査環境づくりに取り組んでまいります。

IVルーム（処置室）内

## 「早期離床・早期自立・早期退院」を目指して

リハビリテーション技術課
樋口　晶

リハビリテーション技術課には、理学療法士17名、作業療法士5名、言語聴覚士4名、看護師1名、受付1名が在籍しています。整形外科疾患では手術翌日から、脳梗塞などの脳血管疾患では発症から3日以内のリハビリテーション開始を目指しています。

また、救命救急センターや集中治療室（ICU）で心がけていることは、多職種での協働です。入室から48時間以内に早期離床プログラムを立案し、リハビリテーション科の基本方針である「早期離床・早期自立・早期退院」を目指してリハビリテーションを行っています。最近では、退院後も継続して運動やリハビリテーションを実施していただけるよう、退院時のリハビリテーション指導にも力を入れています。患者さんご本人だけでなく、ご家族にもご協力いただいています。

# あなたの治療を支えるプロフェッショ

病院での治療というと、医師と看護師の活躍を思い浮かべ
しかし実は、患者さんを支えるために、多くの専門職がプロ
ここでは、普段は見えない「チーム医療」の現場を紹介し
各部署のスタッフが、今伝えたいことを直接お届けします。

## 患者さんの「回復しようとする力」を最大限に引き出す

看護部
馬目 裕子

病院の中で最も多くのスタッフが所属するプロフェッショナル集団、それが看護部です。私たちは「その人が生きる力を引き出すことを支援する」という理念を掲げ、多職種で協働して日々患者さんの治療と生活を支えています。

看護職の役割は、単に診療を補助するだけではありません。けがや病気に向き合う患者さんの不安に寄り添い、本来備わっている「回復しようとする力」を最大限に引き出せるよう、心身両面から専門的なケアを提供することにあります。

多様な専門性をもった看護職が手を取り合い、一丸となって皆さまの療養生活を支えます。治療の道のりを共に歩み、患者さんの生活を支えるパートナーとして、いつでも私たちを頼ってください。

4月に新たな仲間を迎え、皆様の療養生活を支援してまいります。

（当センターヘリポートにて撮影）

## 少しでも傷がよくなるようにチームで支えています

褥瘡対策チーム
皮膚科医師 竹腰 知紀

当センターには、褥瘡（床ずれ）を防ぎ、治すための専門チームがあります。皮膚科医、皮膚・排泄ケア認定看護師、薬剤師、管理栄養士、事務職員が協力し、身体の状態や生活スタイルに合わせて、傷の治療だけでなく、日頃のスキンケア、寝具や体位の取り方、必要な栄養の取り方などを一緒に考えます。病棟では褥瘡回診を行い、傷の状態を確認しながら、その場でケアの工夫や予防のポイントを共有しています。主治医とも連携し、できるだけ褥瘡をつくらないこと、できてしまった場合も少しでも良くなることを目指して、日々活動しています。

ママと赤ちゃんの

# HAPPY BIRTH ROOM

周産期の育児支援 57

## マタニティークラスでパパクラスはじまりました!

周産期スタッフによって行われているマタニティークラスでは、2025年11月より「パパクラス」を開始しました。

パパクラスはその名のとおり、父親になることを予定している人を対象としたマタニティークラスです。妊娠期から産後にかけての女性の身体的・心理的変化、胎児の発達、新生児の特徴、いわゆる産後の気分不調（マタニティーブルー・パタニティーブルー）などについて説明を行っています。また、「パパになること」をテーマに、参加者同士でのグループワークを通じた交流の機会を設けています。

さらに、当院で赤ちゃんを迎えた先輩パパや当院のパパスタッフ（医師や看護師）をゲストスピーカーとして招き、ママへのサポートの実際や育児生活の工夫、育児休業制度（産後パパ育休）の取得の要否や取得した理由など、実体験に基づくお話をしていただいています。

現在までに4回開催されており、いずれの回もほぼ満員となる高い参加率となっています。参加者アンケートでは「男同士で話すことができてよかった」「体験談が参考になった」「他のパパと話すことで自分の準備が足りないとわかった」などの感想をいただいています。

日常生活でパパだけでわいわいと子育てについて話す機会が少ない中、妊娠中のサポートはこうしたらいい、育休中はこういうふうに過ごしたい、子どもが大きくなったらこんなことをしたい、と笑顔で語らう様子が印象的です。社会的には産後パパ育休制度の創設や、父親の育児参加促進が進められていますが、出産・育児については依然として母親が中心的役割を担いがちです。パパクラスでは、パパが自身の思いを積極的に口に出し、自分がどういうパパになりたいのかを見つめ直して整理する機会になっていると感じます。今後もマタニティークラスをきっかけに交流したり、知識を得たり、思いを整理したりできるように改善に努めてまいります。

5B周産母子ユニット
**狩野 瑶生**
Tamaki Kano

たくさんのパパが熱心に
ご参加くださいました

# 「新じゃがいもとアスパラガスのバター醤油炒め」

当センターの栄養課の職員がおすすめする体にも心にも優しい、
食べたら思わず笑顔になってしまうようなレシピを紹介するスマイルレシピ！
今回は内田奈那管理栄養士が紹介する「新じゃがいもとアスパラガスのバター醤油炒め」です。

## 材料（2人分）

- 新じゃがいも……小3つ 200g
- アスパラガス……3本
- 厚切りベーコン……30g
- バター……5g
- しょうゆ……小さじ1
- 黒こしょう……お好み

## 栄養成分（1人あたり）

| | |
|---|---|
| エネルギー | 165kcal |
| たんぱく質 | 4.7g |
| 脂質 | 8.1g |
| 炭水化物 | 18.7g |
| 食塩相当量 | 0.7g |

## 作り方

① 新じゃがいもはよく洗い、皮付きのまま一口大に切る。耐熱容器に入れてラップをし、電子レンジ（600W）で3分加熱する。
② アスパラガスは根元の固い部分を切り落とし、3～4cmに切る。ベーコンは短冊切りにする。
③ フライパンにバターを入れて熱し、ベーコン、新じゃがいも、アスパラガスの順に炒める。
④ しょうゆを加えてさっと混ぜ、黒こしょうをふったら完成。

あと一品欲しいときに簡単調理！

### 使用する材料の効果

新じゃがいもは通常のじゃがいもよりビタミンCが豊富に含まれており、皮つきのまま調理することで栄養を無駄なく取ることができます。また、じゃがいものビタミンCはでんぷんに守られているため、加熱しても壊れにくいのが特徴です。
アスパラガスには、アミノ酸の一種であるアスパラギン酸が含まれており、疲労回復をサポートするといわれています。
旬の味わいを楽しみながら、体にやさしい食事を心がけましょう。

栄養課
**内田奈那**
Nana Uchida

## たくさんのご寄付や応援をいただきありがとうございます。

日本赤十字社医療センターへご寄付いただき、誠にありがとうございました。
皆さまからの貴重なご寄付は、医療機器・材料の購入費などを含めた「病院事業運営資金」として大切に使わせていただきます。
ご芳志への感謝の気持ちを込め、ご芳名を紹介させていただきます。なお、許可をいただいた個人、法人および団体名のみを掲載しています。

沼尻　幸彦さま　森　妙子さま　市島　啓さま　医療法人征友会　ねぎ歯科医院さま
中尾　純さま

※順不同（2026年2月から2026年4月まで）

TeaTime vol.97 2026

編集・発行：日本赤十字社医療センター広報委員会
〒150-8935 東京都渋谷区広尾4-1-22
編集協力：株式会社 広真
表紙イラスト：オオイシチエ

©Japanese Red Cross Medical Center 2026

## いつも貴重なご意見をありがとうございます

**こんにちは、ご意見箱です。**

2月～3月にかけての「患者満足度調査」にご協力いただき、ありがとうございました。
さまざまなご指摘と感謝のお言葉をいただきました。

注射がとても苦手なためとても緊張（血圧も160以上）していました。看護師さんが手際よく、優しい口調で話しかけながら緊張を和らげてくれました。ほとんど病院にかかることのない人にとって病院はとても不安な場所です。造影剤注入後は何度も気遣って声をかけてくれました。口調や声のトーンで患者側の受け取る印象が変わります。素晴らしい対応をありがとうございました。

ご意見箱は院内に15ヵ所あります。

外来6ヵ所、
入院病棟各フロア1ヵ所

日本赤十字キャラクター
『ハートラちゃん』

患者さんからの感謝のお言葉は、病院職員にとってとても励みになります。
これからも職員一同、患者さんに寄り添った対応を心がけてまいります。

## >>> 診察のご案内

| 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 休診 | 休診 |

**●外来休診日…**
土曜日、日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）、日本赤十字社創立記念日（5月1日）

**●受付時間…**

予約のない方 ▶ 初診・再診 8:30～11:00

予約のある方 ▶ 初診 8:30（初診受付開始）～予約時間の30分前
再診 7:50（再来機開始）～予約時間の20分前

※受付時間は診療科によって異なりますので、事前に診療科受付へお問い合わせください。また、初診の方は「かかりつけ医からの紹介状」をお持ちください。

**●急病の場合…**
曜日、時間に関係なく、救急外来で診察します。ご来院の前にお問い合せください。
※診療状況によっては、診察をお断りする場合もありますので、当センターホームページをご確認ください。

**●診察カード…**
全科共通でご使用できます。ご来院のときは必ずお持ちください。紛失・破損した場合は、初診受付にて再発行できます。
※再発行料：1枚220円（税込）

**●資格確認…**
ご来院の際は、マイナ保険証をお持ちください。
※2025年12月2日以降、健康保険証として利用登録したマイナンバーカードの利用が基本となります。
マイナ保険証をお持ちでない方は、資格確認書が必要となります。

**●お薬手帳…**
安全な医療を提供するために、「お薬手帳」などをお持ちください。必要に応じて確認させていただきます。

**TEL（代表） 03-3400-1311**

### 日赤医療センターの情報

※外来担当医のスケジュールは、ホームページでご確認ください
※本誌のバックナンバーは、ホームページ上でPDF版をご覧いただけます

赤十字全般に関すること
https://www.jrc.or.jp

日赤医療センターに関すること
https://www.med.jrc.or.jp

日赤医療センター ホームページ
日赤医療センター YouTube
日赤医療センター Instagram